



ボツワナ国代表選手にバッティングの指導をする協力隊員



## 五輪初出場を目指すボツワナソフトボール代表への支援

2017年1月～2019年7月

アフリカ・ボツワナ共和国のソフトボールは、1970年初頭、米国平和部隊（ボランティア）を通じて草の根レベルで始まり、現在、競技人口4万人を超える国民的スポーツとして全土で各リーグが開催されています。このような中で、青年海外協力隊員が2017年1月～2019年7月までの期間、同国ソフトボールを統括するボツワナソフトボール連盟に派遣され、代表チーム及び学生や社会人チームに対する技術指導に取り組んできました。協力隊員が赴任してから、ボツワナのソフトボール代表は男子代表チームが過去最高位となる世界トップ8入りを果たし、女子代表チームは、世界選手権(2018年・日本)への出場権の獲得、2019年には東京五輪の代表を選考するアフリカ一次予選一位通過という目覚ましい躍進を遂げています。協力隊員から指導を受けた代表選手たちは、試合後に自主的にグラウンド整備に取り組むなど、技術面だけではなく競技に対する意識や姿勢も変わり、選手としての誇りを国民に示し、ボツワナに多くの夢や感動を与えています。

### ～活動や目指す成果～

#### 青年海外協力隊員の派遣

国代表チームへの指導を行い、指導中の選手が2020年の東京オリンピックに出場することを目指しています。

小学校から社会人までの幅広い層の男女に指導して、ボツワナ国内でのソフトボールの一層の普及を目指しています。

ソフトボールを通して、競技能力の向上だけでなく、礼儀作法やマナーの指導等、青少年の健全な心身の育成に貢献しています。